

暑い通学路 熱中症防げ

各校が対策

新型コロナウイルスの感染拡大による長期休校の影響で、多くの小中学校では夏休みが短縮され、早々に授業が始まった。猛暑下の登下校は感染防止に加え、熱中症対策が必要で、各校は対応に知恵を絞る。9月も厳しい残暑が予想されており、専門家は体調管理の徹底を呼びかけている。

距離保てる

2年前に国内最高気温の41・1度を観測した埼玉県熊谷市。大麻生小の通学路では25日朝、30度近い暑さの中、児童らが傘で強い日差しを避けながら登校した。自然に1〜2メートルの距離が保てるので、マスクを外しても構わない。

傘さし登校が始まったのは、6月中旬。担当者は、「まだまだ暑い日が続きそうなので、コロナ対策のためにも当面は続ける」と話す。

「体力戻らず」

文部科学省の調査（6月

日傘・脱ランドセル・給水所

登下校時の熱中症対策



- ▶ 帽子や日傘で直射日光を避ける。なるべく日陰を歩く
- ▶ 水筒などで飲み物を持ち歩き、渴きを感じる前に水分をとる
- ▶ 大量に汗をかいた場合、適度に塩分も補給
- ▶ 学校や家に着いた後も、涼しい環境で体を休める

※日本気象協会の啓発活動「熱中症ゼロへ」を基に作成

23日時点）によると、新型コロナウイルスの影響で小中高校などの休校を実施した全国の教育委員会のうち、95%が夏休みなどを短縮すると回答。夏休みは16日間か23日間が多く、9日間の小中学校もあった。

今月19日に夏休みが明けた岐阜県本巣市の小学校8校では、背中に熱気がこもりやすいランドセルの代わりにリュックサックなどを使う「ノーランドセル登下校」を実施。教科書やノートを学校に置くなど、荷物も極力少なくしている。市教委は「外出自粛などで低下した子供たちの体力は戻っておらず、配慮が必要だ」と説明する。

夏休みが例年の半分以下の16日間に短縮された東京都多摩市の多摩中学校は、正門近くに給水所を設置。地域住民がスポーツドリンクや梅ジュースなどを下校する生徒に提供している。

小学生の登下校を見守るボランティア約700人に帽子と飲料水を配布したのは栃木県真岡市だ。

(2020年8月11日 読売新聞夕刊より)

1 新型コロナの影響で全国の学校は夏休みを短くしました。夏休みの期間は何日間と何日間が多かったですか。

と

2 次の対策を行っている市はどこですか。表の空らんをうめましょう。

| 暑さ対策 | 行っている市 |
|------------------|--------|
| ノーランドセル登下校 | 市 |
| ボランティアに帽子と飲料水を配布 | 市 |
| 学校の正門近くに給水場を設置 | 市 |
| 傘で強い日差しを避けながら登下校 | 市 |

3 多摩中学校の給水場では、なぜ水ではなくスポーツドリンクや梅ジュースを提供しているのでしょうか。正しいものに○をつけましょう。

- () 水よりスポーツドリンクや梅ジュースの方がおいしいから。
- () スポーツドリンクや梅ジュースを飲むと、塩分も補給できるから。
- () 地域の特産品である梅をアピールするため。